



世界に開かれた
ゲートウェイとして
世界と日本を繋ぐ
2050年の
沖縄を描く

GW

GATE WAY PROJECTS 2050

グランドデザイン

GRAND DESIGN

私たち沖縄は1972年の日本復帰後、沖縄振興策を通じた道路、港湾、空港などの社会インフラの整備と人口の伸びを背景に、県内総生産を大きく拡大してきました。

特に、伝統文化や芸能、美しい自然環境を活かした観光産業の成長は、地域経済の活性化に大きく寄与しており、さらなる発展が期待されています。

一方、長きにわたり全国最下位の県民所得水準や子どもの貧困率等の課題を抱え、足元では成長の源であった人口の伸びも減少に転じており、将来にわたる沖縄の成長には、従来の発想や前例にとられないダイナミックかつスピード感をもった変革が求められています。

GW2050 PROJECTSは、沖縄の魅力と沖縄らしさを大切に、すべての県民が誇りを持って平和に暮らせる社会の実現を目指しています。グローバルな視点で世界の潮流をとらえ、真に日本を牽引する沖縄の勝ち筋を明確にし、実行してまいります。

2024年度は、県内総生産の向上に資する産業構造モデルや人材育成の在り方、県全体の生産性の向上や離島の過疎化、交通課題への対応等、全県俯瞰的なグランドデザインを策定しました。

2025年度は、那覇港湾施設、牧港補給地区および普天間飛行場の機能分担により魅力的な沖縄の将来像を描くことで、早期の基地返還を実現し、那覇空港の機能拡充と相乗的な振興・発展を目指して、2050年に向けた沖縄の成長戦略として取りまとめていく予定です。

Preface



Contents

- はじめに.....1
- GW2050 PROJECTSとは.....2
- GW2050グランドデザインの全体像.....3
- 沖縄の現状.....5
- 産業分野.....9
 - 1 既存産業の高付加価値化.....9
 - 2 自然を活かした情報集積拠点【ブルーエコノミー】.....11
 - 3 高齢社会・離島を支え、住まう価値の向上【先端医療】.....13
 - 4 日本をリードするフロンティア領域の開拓【航空・宇宙】.....15
- ひとづくり.....17
- クリーンエネルギー社会の実現.....21
- 空港機能の強化.....23
- GW2050が目指す交通の姿.....23
- 基盤整備.....25
- 実現に向けたロードマップ.....27
- GW2050 PROJECTSグランドデザイン施策一覧.....29

GW2050 PROJECTSとは

基地返還跡地の一体的利用と那覇空港機能強化

那覇空港と今後返還が予定される那覇港湾施設、牧港補給地区、普天間飛行場周辺エリアを「価値創造重要拠点」と位置づけ、各エリアの一体的な利用により、世界に選ばれる沖縄を目指した成長戦略を描いていきます。



価値創造重要拠点を成長ドライバーとして 県全体の持続的な成長へ

【主な検討テーマ】

以下の7つを通じて沖縄の将来像の具現化を図ります。



GW2050 PROJECTS 推進協議会について

GW2050 PROJECTS 推進協議会は、経済界が中心となり、基地返還予定地を有する那覇市、浦添市、宜野湾市と連携した取り組みとして2024年8月に発足しました。

前例に捉われない大胆な発想とスピード感を持った検討・実行により、次代の沖縄の進化を象徴する「世界に開かれたゲートウェイ」として、将来像の具現化を図っていきます。

構成メンバー



GW2050グランドデザインの全体像

沖縄の課題

低所得水準 全国と比較して7割にとどまる所得水準	こどもの貧困 教育機会の喪失と貧困の連鎖	交通渋滞 年間1,455億円相当の経済機会損失	離島の過疎化 慢性的な人口減少
------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	---------------------------

課題の背景と取り組みの方向性

～県内総生産を高めるために～

- 県内総生産の拡大
- 労働生産性の向上
- 域内自給率の向上
- 基幹交通の充足
- 離島の仕事や学びの選択肢の拡充
- 医療環境の充足 など

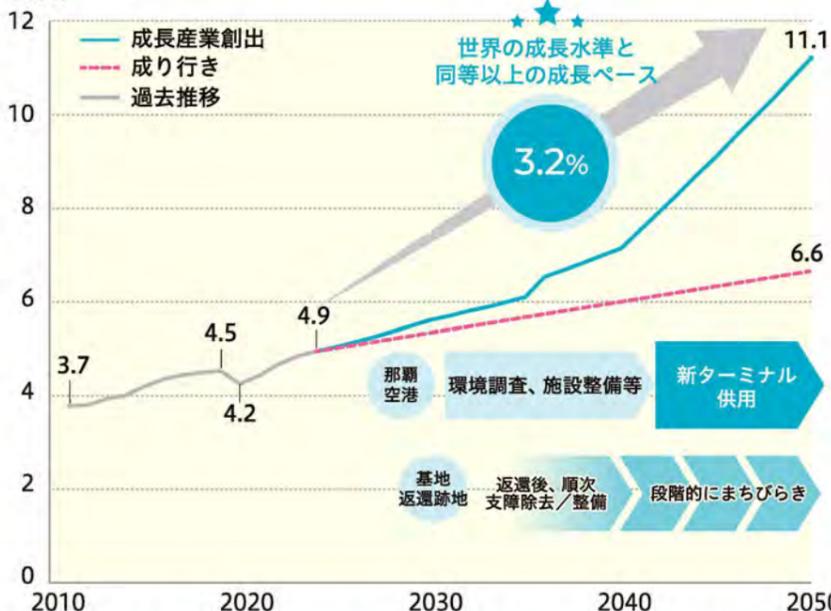
沖縄の魅力や沖縄らしさを大切に
より良い暮らしの持続的発展を目指し成長目標を掲げました。

成長目標



成長産業の創出により目指す経済成長

名目県内総生産 (兆円)



出所：沖縄県「県民経済計算」「労働力調査」「令和6年度本県経済の見通し」「沖縄県の人口移動(長期時系列)」

総人口は
147万人から
167万人へ

就業人数は
77万人から
93万人へ

活かすべき強み

沖縄らしさ

- ・異文化を享受する力・コミュニケーション力とゆいまー精神
- ・豊かな自然と海に囲まれた立地特性
- ・平和を尊ぶ精神と安心安全な生活環境
- ・挑戦スピリッツと時代変化への対応力

期待される役割

- ・成長性の高いアジアと日本を繋ぐ玄関口
- ・自然豊かな島国・日本を代表するエリア
- ・世界に誇るかつての長寿地域ブランド(ブルーゾーンの復活)
- ・本土にない地理的特殊性を活かした戦略拠点

成長目標の達成に向けて

成長目標の達成に向け、①既存産業の高付加価値化、②沖縄らしい新産業の創出、③成長を支えるアジアの人材ハブ化を通じ、域内自給率改善と生産性向上を進めながら、沖縄の経済を世界と戦えるレベルに引き上げ、平和で豊かな社会の実現に取り組みます。

1 沖縄の強みと世界の産業潮流を踏まえた成長産業

アジアを中心としたヒト・モノの交流促進	自然を活かした情報集積拠点	高齢社会・離島を支え住まう価値の向上	日本をリードするフロンティア領域の拡大
既存産業の高付加価値化	ブルーエコノミー	先端医療	航空・宇宙

2 アジアを代表する人材ハブ

- ・県内ビジネスパーソンの経営マネジメント能力向上
- ・観光人材の高付加価値化
- ・次世代を担う人材のグローバル教育
- ・成長産業の専門人材育成
- ・県外・海外からの人材誘致・循環



3 島しょならではの環境対応

- ・空港・港湾の脱炭素化
- ・基地跡地での脱炭素まちづくり
- ・R&D拠点、技術輸出



4 沖縄独自の制度

- ・英語対応強化
- ・在留資格制度
- ・脱炭素型まちづくり
- ・支障除去
- ・医療制度
- ・デジタルプラットフォーム など
- ・跡地開発制度
- ・県民参加型スキーム



5 成長を支える空港・港湾機能

- ・世界中から人が集う観光リゾート拠点化と離島新興
- ・日本とアジアをつなぐビジネス中継拠点



6 経済活動・生活を支える交通機能

- ・空港起点の大量輸送・定時性・速達性を備えた基幹交通
- ・地域交通を含めた広域的な交通ネットワークの形成



7 戦略的パートナーシップ

- ・OISTや台湾経済界との連携



沖縄の現状

Current situation in Okinawa

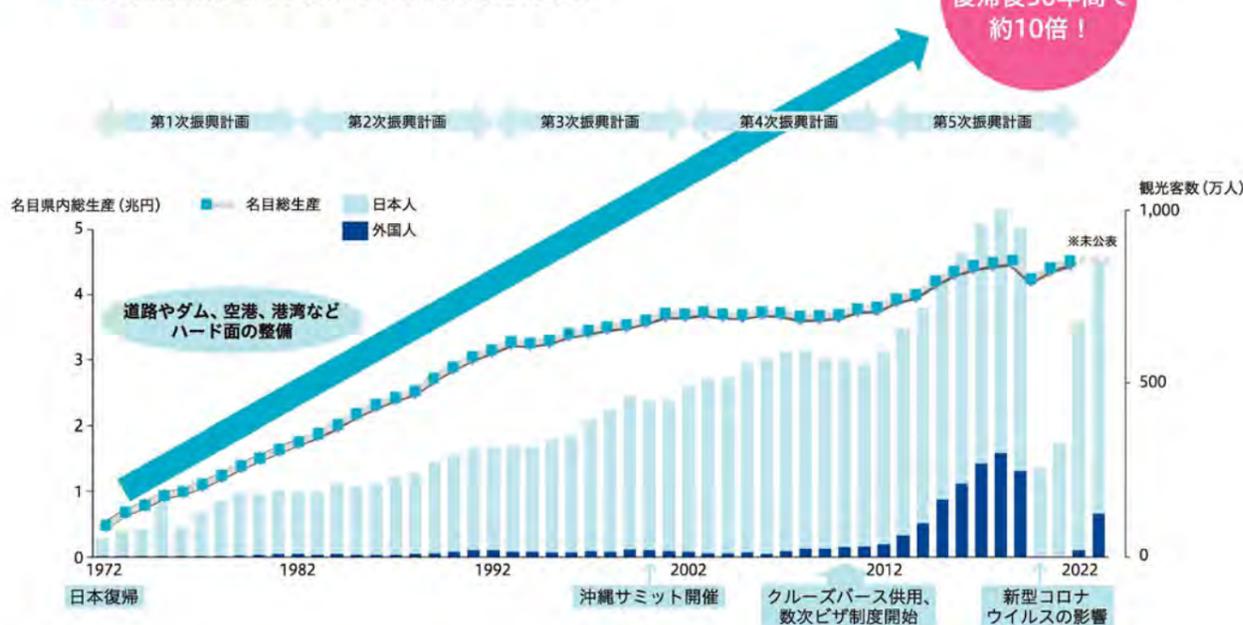
沖縄の経済成長

日本復帰後の沖縄は、第1次振興計画(1972年)から第3次振興計画(2001年まで)の間、本土との格差是正と経済基盤の整備を目標に、道路やダム、空港、港湾などのハード面の整備が図られ、県民生活は向上し、急速な経済成長を実現してきました。

2010年代以降、観光立国政策(ビザ緩和)やクルーズバースの供用効果もあり、インバウンド(外国からの観光客)の増加が観光客数を押し上げ、**県内総生産は、復帰後の50年間で約10倍**に大きく拡大してきました。

※県内総生産
県内で一定期間(通常は1年間)に生み出されたすべての財やサービスの付加価値の総額を示す経済指標です。これは、県内の経済活動の規模や活発さを測るために使われます。

■名目県内総生産の推移および観光客数の推移



出所: 沖縄県「県民経済計算」、「入域観光客統計」

主な課題 | Issue

経済が飛躍的に発展してきた半面、長らく続く構造的・特殊事情による課題も残っています。

01 低い県民所得、子どもの貧困

県内総生産の成長に反し、県民一人当たりの所得水準は、**全国水準の約7割で停滞**しており、**労働生産性が低い**ことが要因と考えられます。

生活環境や家庭の事情によって、子どもたちの教育機会に格差が生じる場面もあり、将来の選択肢に影響を及ぼす懸念が指摘されています。



02 若者世代の県外・国外への流出

県内の10代から20代の若者の流出超過は毎年2,000～3,000名に達しています。特に3月に集中していることから、**県内の学びの場や就職の選択肢が限られている**ことが要因と考えられます。

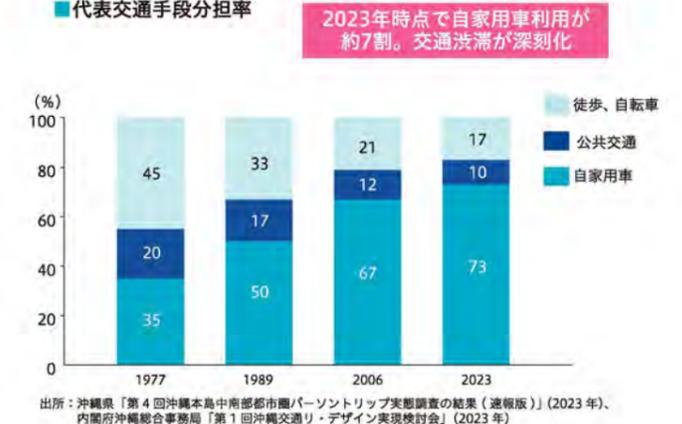
■若者世代の人口流出



03 交通渋滞による経済機会損失

都市圏中心部の住宅価格の上昇により、居住エリアが郊外へと広がっています。その結果、通勤・通学における自家用車の利用が増加し、交通渋滞が深刻化しています。この交通渋滞により、年間**約1,500億円**の社会的損失が発生しています。

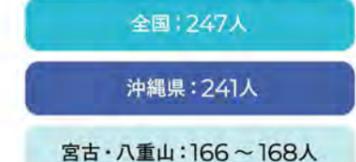
■代表交通手段分担率



04 離島の過疎化

離島においては生活利便性の低さや医療提供の課題、限定的な就業機会を理由として**慢性的な人口流出**が進行しており、**過疎化対策が急務**となっています。

■人口10万人あたりの医師数(2018年)



出所: 沖縄県 保健医療介護部 保健医療総務課「令和2年度 医師・歯科医師・薬剤師調査報告書」

沖縄の更なる成長＝「**県内総生産の向上**」には、課題を踏まえた以下の取り組みが重要です。

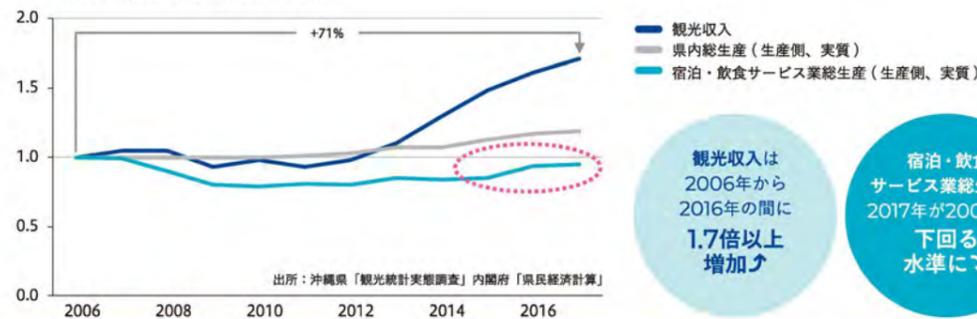


01 域内自給率の低さ

沖縄県の**域内自給率***は約7割に留まっており、**全国平均の約9割と比較して低い水準**です。特に沖縄の基幹産業である観光関連産業において、収益が県外に流出し、**観光収入は増加しても県内総生産が増えない**という課題が生じています。

※域内自給率（県内総生産/総需要）
特定の地域内で発生した需要を、その地域内で生産されたものでどれだけ満たせるかを示す指標です。例えば、沖縄県内で消費される食料のうち、どれだけ県内で生産されているかを示す割合です。

■観光産業における県外流出影響



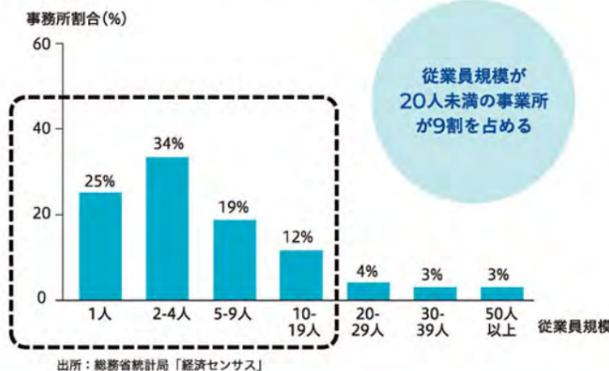
➡ 県内総生産や県民所得の向上には、域内自給率を上げる取り組み

02 労働生産性

沖縄は、島しょ地域であるためマーケット規模が限定的であり、事業規模が小さく効率化が図りにくいことから、労働生産性*が低い傾向にあります。

※労働生産性
働く人が一定の時間内にどれだけ成果を出せるかを示す指標のことで、労働生産性が高いと企業は利益が増えやすくなり、働く人にとっても賃金の向上が見込まれます。

■従業員規模別事業所数 (2021年)



➡ 労働生産性の向上には、グローバル市場への展開による事業規模の拡大や、先端技術の導入による民間を含めた施設、設備、業務の集約化・高度化

GW2050では、県内総生産の持続的な拡大に向け、産業の創出とそれを支えるひとづくりなどの基盤整備を通じて、**沖縄の課題解決を図り、将来に亘って豊かなくらしに繋がるよう取り組みます。**

産業分野については、これまで沖縄の経済発展を支えてきた「**既存産業**」と、今後の技術革新や市場の変化によって見込まれる「**沖縄らしい新たな産業**」、「**グローバル産業**」について、それぞれの特性を踏まえた取り組みを行います。



沖縄らしさと期待を踏まえた成長産業とは？

沖縄らしさと期待される役割を踏まえ、真に日本をけん引する沖縄の実現に向け、4つの成長分野が考えられます。

沖縄らしさ

- 異文化を享受する力・コミュニケーション力とゆいまー精神
- 豊かな自然と海に囲まれた立地特性
- 平和を尊ぶ精神と安心安全な生活環境
- 挑戦スピリッツと時代変化への対応力

期待される役割

- 成長性の高いアジアと日本を繋ぐ玄関口
- 自然豊かな島国・日本を代表するエリア
- 世界に誇るかつての長寿地域ブランド (ブルーゾーンの復活)
- 本土にない地理的特殊性を活かした戦略拠点



High value

1 既存産業の高付加価値化

P.9

Blue economy

2 自然を活かした情報集積拠点
ブルーエコノミー

P.11

Advanced medical care

3 高齢社会・離島を支え、住まう価値の向上
先端医療

P.13

Aviation / Space

4 日本をリードするフロンティア領域の開拓
航空・宇宙

P.15

1 既存産業の高付加価値化 High value

既存産業については、基幹産業である観光関連産業の成長を起点に、観光消費における域内自給率の向上（県内生産品消費割合の増加）と、インバウンドを活用したアウトバウンド（移出・輸出）の創出により、波及効果の最大化を目指します。

POINT 1 富裕層・投資家
ビジネス人材の呼び込み

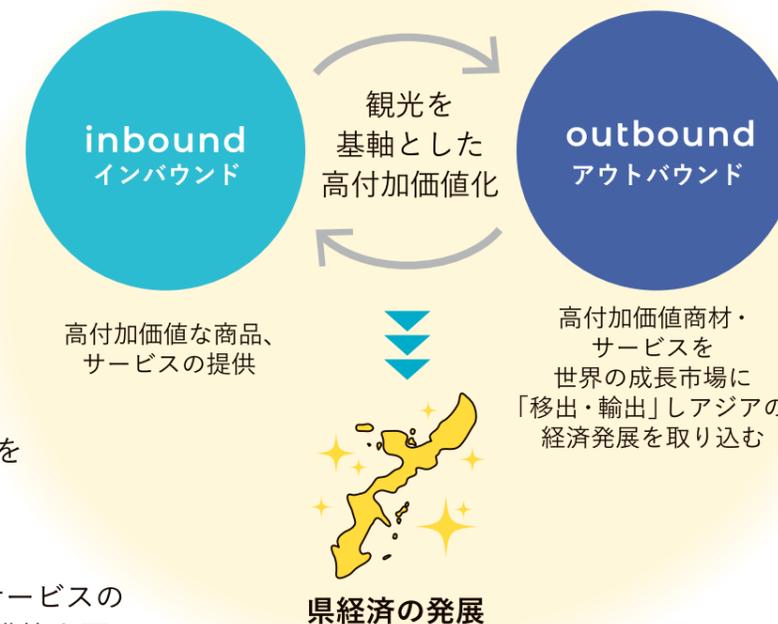
沖縄への投資やアウトバウンドに繋がる高付加価値層 を呼び込むための仕組み作り

POINT 2 観光消費における
域内自給率の向上

域内自給率（県内生産品の消費割合）の増加を目的として、観光産業と地域の他の産業との連携を強化し、観光関連消費に占める県産品の割合を高める取 り組み

POINT 3 既存産業の高付加価値化と
アウトバウンドの創出

高付加価値層の呼び込みと併せて、インバウンドを活用して アウトバウンドに繋げることで、商品・サービスの高付加価値化や企業価値の向上、海外市場への拡大に よる既存産業の拡大と伝統継承モデルの構築を図る



具体的な

取組み ▶▶▶ アウトバウンド創出型DMO

海外の富裕層（観光）や投資家、ビジネスリーダーを受け入れ、アウトバウンド創出に特化したDMO（Destination Marketing Organization）機能の構築を目指します。



2

Blue economy

自然を活かした 情報集積拠点 **ブルーエコノミー**

沖縄は豊かな海洋資源・自然環境に恵まれており、県内学術機関や地元企業の研究力を活かし、情報・研究開発機能の集積から沖縄ならではのブルーエコノミー※関連事業を創出します。

※ブルーエコノミー
経済成長と環境保護を両立し海洋資源を持続的に活用する取り組みです。



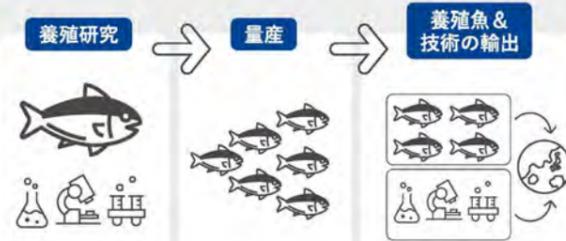
INITIATIVES

1

亜熱帯性気候の 養殖技術を活かした 食糧需要対応

- 漁獲量減少や世界人口増加に伴う食料需要に対して、県内で研究されている養殖技術の活用が期待されます。

亜熱帯性気候ならではの養殖モデルを確立し、養殖品や養殖技術の産業化を目指します。



INITIATIVES

3

海洋研究拠点化と 海洋鉱物資源の活用

- 沖縄近海の海洋データや海底探査技術の集積化及び、鉱物資源の事業化は大きな成長産業となることが期待されます。

生物多様性データベースや衛星データを活用した海洋DXの推進により、豊かな海洋資源を把握し、先進的な海洋研究地域として注目されます。



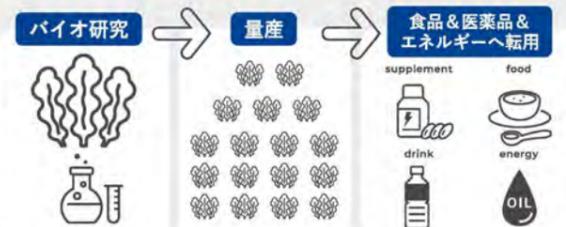
INITIATIVES

2

生物多様性・亜熱帯性気候 ならではのバイオ産業の確立

- 亜熱帯性の海洋資源と県内学術機関が有する豊富な生物データベースを活用した、バイオ分野の産業化が期待されます。

亜熱帯性気候を活かした藻類の培養技術の確立と、食品・医薬品やエネルギーへの転用を推進します。



INITIATIVES

4

特殊船舶対応の特色のある 船舶MROの拠点化

- 海に囲まれた沖縄の近海では様々な船舶が航行しており、今後市場拡大が見込まれる船舶メンテナンスの産業化が期待されます。

スーパーヨットや調査・採掘船などのMRO機能の拠点化により、観光や海洋研究との相乗効果を目指します。



※MRO
「Maintenance (整備)、Repair (修理)、Overhaul (オーバーホール)」

3

Advanced medical care

高齢社会・離島を支え、 住まう価値の向上 先端医療

県民健康医療データや島しょ地域におけるニーズ、
県内学術機関の研究シーズを活かした、
医療データ活用・遠隔医療確立・先端・再生医療拠点化を目指します。

INITIATIVES

1

長期時系列の健康・医療 データの構築・活用

- 世界中でニーズの高まる非感染型疾患の研究と、健康データを組み合わせることで産業化が期待されます。

経年変化の影響分析に向いている島国の特長を活かした、非感染型疾患（がん・糖尿病・循環器疾患等）の因子特定研究及び創薬産業化へ繋がります。



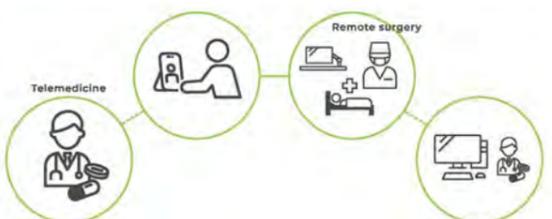
INITIATIVES

2

離島振興の実現と成長を 両立する遠隔医療確立

- 日本国内における過疎化地域での医師不足対応と、県内離島地域で深刻化する医療不足の解消、さらに世界的な医療格差の改善が求められます。

予防から治療、見守りを実現する遠隔医療プラットフォームの構築に向けた実証研究を進め、遠隔診療モデルの産業化を目指します。



INITIATIVES

3

沖縄の誇る 基礎研究を活かした 世界最先端の再生医療

- 世界的な超高齢化社会に対応する、健康・長寿ニーズが高まっています。



産学共同研究を加速するサイエンスパークを核とした再生医療の拠点化を目指します。

サイエンスパークとは



サイエンスパークは、科学技術や研究開発を促進し、新ビジネスや新製品の創出に繋げるための戦略的産業推進エリアです。
大学・研究機関・企業などが集まり、量子技術、バイオテクノロジー、ロボット工学など、さまざまな分野に取り組むことにより、成長産業が生まれ、地域総生産の拡大や雇用の創出も期待されます。

エコシステム



研究施設

高度な研究を行うための設備が整っています。例えば、実験室やコンピュータラボなどがあり、研究者が最新の技術を使って研究を進めることができます。



大学・企業連携

大学や研究機関と密接に連携し、最新の研究成果を活用します。大学の研究者がサイエンスパークで研究を行い、その成果を企業が実用化することができます。



スタートアップ

新しいビジネスモデルや技術を開発する機会が提供されます。革新的なアイデアで、迅速な成長を目指します。



企業集積

スタートアップ企業や技術系企業が集まり、相互に協力し合います。これにより、新しいアイデアや技術が生まれやすくなります。

4 Aviation / Space



日本をリードする フロンティア領域の開拓 航空・宇宙

赤道に近い低緯度立地と日本の宇宙開発技術を活かし、ニーズが高まる東南アジアの宇宙ビジネス需要取り込みと、空港機能を拡充した航空MRO高付加価値化による発展を目指します。

INITIATIVES

1

東南アジア 衛星ネットワークと 低軌道衛星の 情報集積・活用拠点化

- 世界的な宇宙開発需要の高まりと将来的な成長性を背景に、東南アジアとの連携による競争力強化と商業化の両立を目指します。
- 衛星データを活用した気候・災害予測への活用ニーズも高まっています。

海洋研究集積に伴い、衛星データの高付加価値化を図ります。また、東南アジア向けに防災や・農業等のアプリを提供し、国内外の地域ニーズに応えます。

東南アジアの衛星研究開発拠点化と、次世代型宇宙港整備による輸送拠点化について検討します。



INITIATIVES

2

沖縄らしい 高付加価値化での 航空MRO強化

- 那覇空港滑走路・スペースを活かし、観光・ビジネスと連動したMRO需要拡大が期待されます。
- ※MRO
「Maintenance (整備)、Repair (修理)、Overhaul (オーバーホール)」

大型機やビジネスジェットに対応したMROを確立し、航空関連産業の拡大を目指します。



沖縄の国際拠点化

国際会議や公的機関を誘致することで、沖縄が世界をリードする国際的な集積拠点になることを実現します。

誘致



国際会議 国際会議の開催

- 島サミット、環境サミット
- ブルーエコノミー、先端医療、宇宙など国際会議

公的機関 公的機関の誘致

- 日本政府機関、研究機関 (JAXA、JAMSTEC、AMEDなど)
- 国際機関など

※JAXA「宇宙航空研究開発機構」、JAMSTEC「海洋研究開発機構」、AMED「日本医療研究開発機構」

グローバルイベント

グローバルイベントの開催・誘致

- エンタメ、アートのオークションなど
- 世界的なテックイベントや展示会



- 世界的な認知度向上
- 関係者の往来や視察増加
- 協議やコミュニケーション増加

キーパーソンへの
アプローチが拡大

沖縄が国際的な集積拠点に!

関連企業や県外・海外の学術機関、高度人材やベンチャーキャピタルなど、世界のメインプレイヤーが集積し、産業拡大を加速します。

